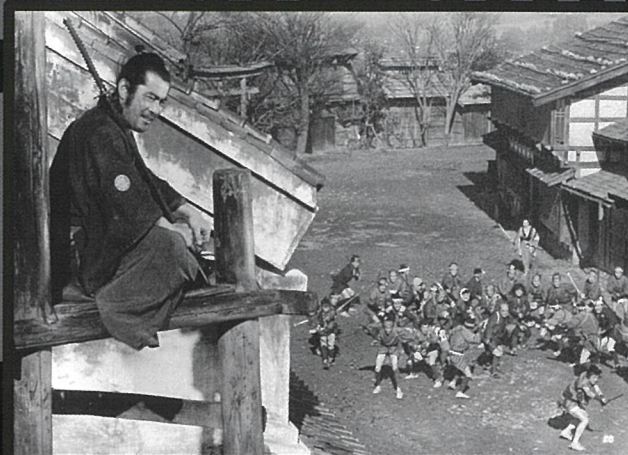


生きる

[1952年 東宝]

白黒/スタンダード  
モノラル/143分



用心棒 [1961年 東宝=黒沢プロダクション]

白黒/シネマスコープ/モノラル/110分



隠し砦の三悪人 [1958年 東宝]

白黒/シネマスコープ/モノラル/138分

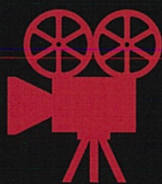


天国と地獄 [1963年 東宝=黒沢プロダクション]

白黒/シネマスコープ/モノラル/143分

令和6年度優秀映画鑑賞推進事業

# 小郡 名画座



令和7年 **1月18日(土)**

生きる 11:00~13:23

隠し砦の三悪人 14:00~16:18

令和7年 **1月19日(日)**

用心棒 11:00~12:50

天国と地獄 13:20~15:43

チケット  
発売中



小郡市文化会館大ホール

各上映の開場は30分前となります。



2日間通して

**500円** (税込)



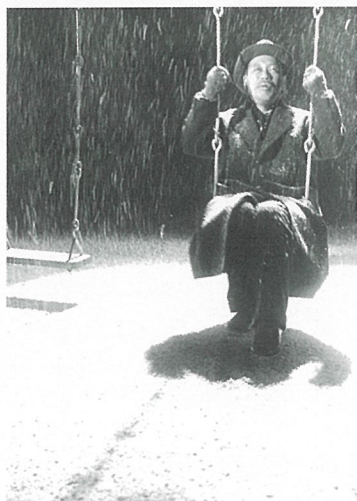
小郡市文化会館・小郡市役所売店・大原きぼうの森館・ふれあい館三国  
ポピーの里あじさか館・稲穂の里みはら館・緑の里くろつち会館・ひまわり館東野  
のぞみがおか生楽館・小郡交流センター

お問い合わせ 小郡市文化会館 福岡県小郡市大板井136-1 電話番号 0942-72-3737

【主催】小郡市文化事業協会・小郡市・小郡市教育委員会・国立映画アーカイブ

【特別協力】文化庁・一般社団法人日本映画製作者連盟・全国興行生活衛生同業組合連合会・株式会社KADOKAWA





## 生きる

[1952年 東宝]  
白黒/スタンダード/モノラル/143分

それまで無気力に生きてきた一人の役人が、死という絶対的なものを目前にして、自分を見つめ直し、人間としての尊厳をとりもどしていく姿を描いた作品で、主役を演じた志村喬の〈 Gondola の歌〉が感動的。胃癌であると知った男は、夜の街をさまよっては見知らぬ男と暴飲に明け暮れるが、部下の言葉により生き方を変えはじめる。映画の途中で場面が突然男の通夜へと変わり、参列者の回想により、男のそれまでの行動が断片的に描かれるという、特異な物語構造も注目を集めた。第4回ベルリン映画祭でのベルリン市政府特別賞受賞や、「キネマ旬報」ベストテン第1位など国内外で高い評価を得た。黒澤明と脚本家の小国英雄が初めて組んだ作品でもある。

[スタッフ]  
脚本 橋本忍  
// 小国英雄  
脚本・監督 黒澤明  
撮影 中井朝一  
照明 森茂  
録音 矢野口文雄  
音楽 早坂文雄  
美術 松山崇

[出演者]  
渡辺勲治 志村喬  
小田切とよ 小田切みき  
市民課 坂井 田中春男  
市民課 野口 千秋実  
市民課 大野 藤原釜足  
勲治の息子 光男 金子信雄  
勲治の兄 喜一 小堀誠  
勲治の妻 たつ 浦辺糸子  
小説家 伊藤雄之助  
患者 渡辺篤  
医師 清水将夫



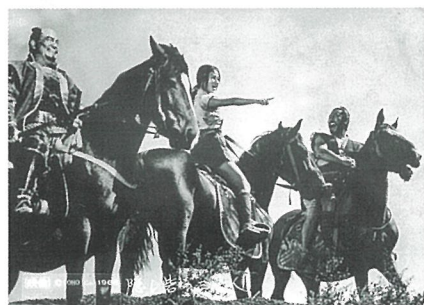
## 用心棒

[1961年  
東宝=黒沢プロダクション]  
白黒/シネマスコープ  
モノラル/110分

[スタッフ]  
脚本・監督 黒澤明  
脚本・製作 菊島隆三  
宮川一夫  
撮影 石井長四郎  
照明 三上長七郎  
録音 下永尚  
// 佐藤勝  
音楽 村木与四郎  
美術

[出演者]  
桑畑三十郎 三船敏郎  
新田の卯之助 仲代達矢  
ぬい 司葉子  
清兵衛の女房おりん 山田五十鈴  
卯之助の次男亥之吉 加東大介  
馬目の清兵衛 河津清三郎  
造酒屋徳右衛門 志村喬  
百姓の小倅 夏木陽介  
居酒屋の権爺 東野英治郎  
名主多左衛門 藤原釜足

ダシール・ハメットのハードボイルド小説『血の収穫』を大胆に翻案、西部劇の手法を取り入れながら、三船敏郎演じる浪人の痛快無比な姿を描いた黒澤明による大ヒット時代劇。舞台は上州、かつて絹市で栄えた宿場町は、清兵衛一家と丑寅一家との抗争で、無法地帯と化していた。そんな宿場に流れ着いた凄腕の浪人、自称・桑畑三十郎は、両家の親分に自らを用心棒として売り込む…。撮影は、東宝撮影所横の農地に巨大なオープンセットを建て、「羅生門」(1950年)以来の黒澤組となった宮川一夫カメラマンが、複数のカメラと望遠レンズを駆使し、シネマスコープの画面を意識した見事なフレーミングで、比類のない娯楽活劇に仕立て上げた。海外でも評判を呼び、盗作騒ぎも起きた『荒野の用心棒』(1964年、セルジオ・レオーネ監督)は、主演クリント・イーストウッドをスターへと押し上げるとともに、イタリア製西部劇(マカロニ・ウェスタン)のはしりとなった。「キネマ旬報」ベストテン第2位。



## 隠し砦の三悪人

[1958年 東宝]  
白黒/シネマスコープ  
モノラル/138分

[スタッフ]  
脚本 菊島隆三  
// 小国英雄  
// 橋本忍  
脚本・監督 黒澤明  
撮影 山崎市雄  
照明 猪原一郎  
録音 矢野口文雄  
// 下永尚  
// 佐藤勝  
音楽 村木与四郎  
美術

[出演者]  
真壁六郎太 三船敏郎  
雪姫 上原美佐  
百姓 太平 千秋実  
// 又七 藤原釜足  
田所兵衛 藤田進  
老将 長倉和泉 志村喬  
百姓娘 樋口年子  
老女 三好栄子  
落武者 加藤武  
山名の番卒 三井弘次  
人買い 上田吉二郎

時は戦国時代。隣国との戦いに敗れた秋月家の侍大将(三船敏郎)は、姫を守りながら、軍用金を手に敵中突破を図ろうとしていた。同盟国に脱出するためである。二人の百姓を狂言まわしに使い、お家再興にまつわる宝探し、敵中横断にともなう追っかけなどを盛りこんだ作品。襲いかかるさまざまな難関、手に汗握るスリリングな場面が連続する。そのようなシチュエーションをいかに面白く組み立てるかに脚本家の菊島隆三、小国英雄、橋本忍の三人と黒澤明は大いに知恵を絞ったという。観客を決して飽きさせないという決意がうかがえるシナリオである。この映画が製作された1958年は、映画館入場者数が史上最高の11億2745万人を数えた年である。この時、映画は文字どおり大衆娯楽の王者であり、そしてこの作品は、まさにその記念すべき年にふさわしい作品であった。「キネマ旬報」ベストテン第2位。1959年ベルリン国際映画祭監督賞、国際映画批評家賞を受賞。



## 天国と地獄

[1963年  
東宝=黒沢プロダクション]  
白黒/シネマスコープ  
モノラル/143分

[スタッフ]  
原作 エド・マクベイン  
脚本 小国英雄  
// 菊島隆三  
// 久板栄二郎  
脚本・監督 黒澤明  
撮影 中井朝一  
// 斎藤孝雄  
// 森弘充  
録音 矢野口文雄  
// 佐藤勝  
音楽 村木与四郎  
美術

[出演者]  
権藤金吾 三船敏郎  
戸倉警部 戸倉警部  
権藤の妻 伶子 仲代達矢  
権藤の秘書 河西 香川京子  
荒井刑事 河西 三橋達也  
田口部長刑事 木村功  
捜査本部長 石山健二郎  
運転手 青木 志村喬  
犯人 佐田豊  
山崎努

この作品は、アメリカの推理作家エド・マクベインの『キングの身代金』を映画化したものであるが、連れ去る子供を取り違えたとしても、その犯人の脅迫は成立するとのヒントを借りただけで、ほとんどのトリックは黒澤をはじめとする脚本家たちのアイデアである。この映画のクライマックスは二つある。一つは特急こどものトイレの窓から身代金の3000万円を投げ出す場面。これは実際運行される車両を借り切って、数台のカメラで同時間に撮影された。もう一つは、極刑を課すために犯人を泳がせ、新たな殺人現場におびき出す場面である。『用心棒』(1961)や『椿三十郎』(1962)で、これまでの時代劇にはなかった迫力を演出した黒澤であったが、この作品でも、サスペンス映画に斬新な演出を試みている。〈天国〉に住む富豪と対照的に〈地獄〉に住む青年医師を演じた山崎努は、文学座の新人俳優であったが、この作品で一躍注目を浴びた。「キネマ旬報」ベストテン第2位。